

# 石段の家2号館リノベーションプロジェクト ～呉高専生による空き家再生の取り組み～

呉工業高等専門学校 建築学分野・助教 光井 周平  
機械工学分野・准教授 上寺 哲也

呉工業高等専門学校（以下、呉高専）では、平成27年度から新たに「インキュベーションワーク」という授業を始めました。ここでは、読者のみなさまに呉高専での教育活動について知っていただくために、インキュベーションワークの1つとして取り組んでいる空き家再生プロジェクトについてご紹介したいと思います。

呉高専は呉市阿賀南にある高等教育機関です。機械工学科、電気情報工学科、環境都市工学科、建築学科の4学科に5学年・約850名（専攻科2学年を加えると約900名）の学生が学んでいます。昭和39年に開校、平成27年度に創立50周年を迎えました。

昨年度から新たにスタートしたインキュベーションワークは、学生が自学する能力を伸ばし、社会を変える力を持った学生を輩出することを目的とした授業です。「学生に何を教えたか」ではなく「学生が何を学んだか」に主眼をおいた授業を行い、この授業によって学生が自らの殻を破って「インキュベート＝“孵化”」する教育を目指しています。

初年度である昨年度はまず教員から60あまりのテーマを提示し、全学科全学年の学生がその中から興味のあるものを1つ選び、1年間のワークに取り組みました。テーマの例としては、地域の高齢者福祉施設と連携して介護用機器の開発を行うものや、小中学生を対象に理科教育及び教材開発を行うものなどがあります。こうした学外との連携や外部の方々から学生が評価を受ける場面を設けることもこの授業のねらいの1つです。

私が担当している「呉の未来を創る～場づくり・コトづくり・ヒトづくり～石段の家2号館リノベーションプロジェクト」は、社会問題となっている空き家対策に地域住民と連携して取り組むインキュベーションワークの代表的なテーマの1つです。呉市両城地区にある空き家を題材に30名を超える熱意のある学生が参加して取り組んでいます。建築学科だけでなく、機械系や土木系の学生も参加している点がユニークなところ です。



学生と再生に取り組む石段の家2号館



石段の家から呉港を望む

少し話が逸れますが、光井の専門分野は数値計算力学、特に木材を対象としたシミュレーションに関する研究を行っています。空き家再生の取り組みを行っている研究者は一般的にデザイン、建築計画、都市計画などの分野の方が多いかと思いますが、構造系の研究者がこうした取り組みに関わっているのは珍しい事例ではないかと思います。ちなみにもう1人の指導教員である上寺は機械工学が専門です。インキュベーションワークは教員にとってもチャレンジしなければならないことが多い（でもそれが楽しい）授業です。

熱意あふれる学生たちと新たな分野に挑戦する2人の教員とで始めた空き家再生プロジェクト。昨年5月にスタートして以来、地元の方とのまち歩き、建物の実測調査と耐震診断、清掃と床の改修、地域マップづくり、地域住民や小中学生を交えての各種イベント開催など、1年間に渡って学生も教員も試行錯誤しながら進んできました。具体的な改修はまだ床や壁の一部で行っただけですが、呉のまちを一望できるロケーションも活かして、高専生ならではのリノベーションプランを提案したいと考えています。

4月から新たな1年がスタートしました。学生が自主的にテーマを立ち上げるなど、学校全体で新たなチャレンジが始まっています。地域を学生の学びのフィールドに、専門的な技術を学ぶ高専だからこそできることを、学生とともに進めていきます。

詳細は呉高専ホームページ内「高専日誌」でも紹介中！ ><http://www.kure-nct.ac.jp/>



まずは掃除からスタート



床の改修作業の様子



イベント用に作成した地域マップ



1月に開催したイベントの参加者